Thank you for all your support!

あまりにも多くのことが起きた2020シーズン。コロナ禍に見舞われ、異例尽くしでの開催となったリーグ戦。約4か月にわたる中断期間、リモートマッチ、客数や応援の制限、そして5連戦が何度もやってくる超過密日程。そして、4年ぶりとなるJ2リーグの舞台で待っていた、“9連勝”と“9戦勝ちなし”という真逆の景色。そんな激動のシーズンの振り返りと、厳しい制限下でもできる限りの応援でチームを後押しし続けてくれたファン・サポーターの皆さんへの感謝を、お届けします。

また、“シマダノメ”でおなじみの島田 徹氏によるシーズンレビュー、選手サイン入りアイテムのプレゼントも。

この状況で最後まで後押しをしてくださった皆さんへ、心からの“ありがとう”を。

Message

質問
|
[1]2020シーズンを振り返って
[2]2020シーズンで最も印象に残った試合は?
[3]前代未聞の過密日程を闘い抜いた感想は?
[4]ファン・サポーターの皆さんへのメッセージ

小林 伸二 監督
Shinji KOBAYASHI

1 世の中の環境が厳しい中で多くの人たちの力によってJリーグが再開できたというのは素晴らしかったと思います。そこに合わせて我々は多くの経験を得て素晴らしい結果を出せたと思います。そこには多くの人の応援や、こんな状況でもリーグを進めていけるように尽力してくださった方の力で素晴らしい経験ができたと思っています。決してチーム・クラブだけではJリーグは成り立たないということを実感したというシーズンでした。そこに対して、我々はどう答えを出していくかというところを真摯に受け止めて、選手もスタッフも頑張ったと思いますし、それがこの結果につながったと思います。チーム・クラブの来年につながるいいシーズンになったと思いますし、実際に来季はいいシーズンになるようにつなげていきたいと思います。

2 一番自分がこのリーグをどう戦えるのだろうかと思ったのはホーム琉球戦です。このまま通用しないんじゃないかという不安、とにかく一つ勝てば去年からやっているサッカーが少しJ2の中でも機能するんじゃないかという期待の2つがあった1週間を過ごしました。ゲームとすれば、ホーム新潟戦がおもしろかったんじゃないかと思いますし、今後の参考になるのはホーム磐田戦ですかね。逞しさや積極性というところがシステムを変えてもスイッチが切り替わればやれると感じたところでは印象的ですね。

3 まずこういう環境の中でもやれたことは素晴らしかったと思います。PCR検査を全員が受けて連戦を戦っていくということと、健康のことをこれだけケアしながら準備をするということ、ピッチに立つということは選手・スタッフからすれば当然のこととして考えますけど、これだけ大事にしたシーズンはなかったのではないかと思います。
その中でどうしてもリカバリーが大変で、選手だけでなくスタッフも次の試合に向けた準備がどうしても十分にやれないという、前のゲームを消化して次のゲームにチャレンジしていくという中で、勝ち続ければいいんですが負けてしまうとメンタルをリカバリーして前に向かう、プレッシャーを跳ね除けて前に出ていくということの難しさというのは選手・スタッフみんなが感じたんではないでしょうか。監督は余計にそういうところを突き進むためのリカバリーがすごく大事で、それを常に巻いて前に進んでいかなくてはならないというのがすごく難しいなと感じました。

4 本当にコロナ禍で、我々が怖がるのと同様に子どもたち・年齢の高い方はもっと心配だったと思います。その方々がそれでもスタジアムまで足を運んで応援してくれたことは幸せだと思っています。何らかの形で返していかなくてはと思っていますし、そういう中で結果が順調に出たからこそ、もう少しふれあいができればよかったとも思います。そんな中でいろいろな形で応援してもらえていたのを我々は感じていましたし、それに今年は応えられたのではないかと思っています。今シーズン、応援ありがとうございました!

31 永井 堅梧 選手
Kengo NAGAI

1 前半戦は折り返したタイミングで1位でしたけど、後半戦の失速具合というのは個人的にはもう少しチームに貢献できたらというので、もがきながらやっていました。なかなかチームとしても結果が出せず、個人としても失点が増えてきたという印象があります。その時期をもう少し乗り切れれば変わった順位になっていたのかなと思います。

2 ホーム金沢戦かな。連戦が続いていた中で、うちが初めてターンオーバーして8人くらい先発を入れ替えた試合。去年からの印象で金沢は強いし勝ちに強いチームという印象だったので、メンバーが変わった中でどう自分がプレーで表現して引っ張っていけるかなという試合でした。2本くらい1対1のシーンがありましたが、自分の理想通りというかうまく止められたなというのは今でも印象に残っていますね。

3 目の前の試合に勝ちに行くというエネルギーを回復するのは難しくて、モチベーションは高いけどなかなか気持ちの部分でリセットするのが難しかったです。そこをうまく乗り切れれば、どんどん試合がくるので自分の調子がよかったらそのまま行けるし、悪かったら逆に切り替えてできたりもしたので、メリット・デメリットそれぞれある中で、もがきながらできたシーズンだったかなと思います。

4 中断期間が明けてからもお客さんが入れない状態で試合もあった中で、それでもSNSや手紙とかいろいろな形で応援してくださった人たちがいたので、そういうところで後押しをしてくれたことも大きかったですし、声は出せないですけど密になりかねないスタジアムでもリスクを負いながら足を運んでくれたりしてくれたので、選手としてはすごく幸せな環境を整えてもらったので、その人たちに昇格という結果を残せなかったことは悔しさや申し訳なさはありますが、ギラヴァンツ北九州としてJ2昇格初年度にうまく前に進めたシーズンだったのではないかと思います。

6 岡村和哉 選手
Kazuya OKAMURA

1 怒涛のというか…過ぎ去っていったというか…本当に次の試合がすぐやってくるという感じで、いい時期もあったし悪い時期もあったけど、チームとしては悪い時期を経験できたというのを財産にして来季を迎えられたらと思ったシーズンでしたね。

2 初出場した琉球戦ですね。あの試合で出るチャンスをもらって、これを逃したら後はないって気持ちで臨んで、そこからチームもいい流れに乗れたということで、自分の分岐点になったかなと思います。

3 とりあえずしんどかったです（笑）。特に移動のところで、帰ってきて次の次の日にまた移動とかあって後泊してということも多くあったので、遠征先でどうやってコンディションを整えるかというのがすごく大事でした。とにかくコンディションを意識しながらやっていたので、連戦でこれだけ動けたということは1週間空く時でもしっかりアプローチしていけば、もっといいパフォーマンスを出せるのかなということもわかりましたね。

4 いろいろな意味で厳しいシーズンでしたが、J2に昇格して1年目で不安もあった中、コロナが流行って自粛期間が続いた時でも選手個人、チーム、スタッフ、スポンサー、会社、ファン・サポーターの皆さん、すべての皆さんが前を向いて準備をしてやれたことと、再開後も一丸となって一緒の方向を向いて進めたからこそ今の結果になっていると思うので本当に感謝しています。これからも同じ方向を向きながら、歩んでいってほしいと思います。1年間ありがとうございました!

16 村松 航太 選手

Kota MURAMATSU

1 チームは一桁順位を目標にしていた中でそれは達成できたので、そこはよかったなと思うのと、試合に1年通して絡み続けられたのでそれはよかったと思っています。

2 デビューしたアウェイ長崎戦ですかね。やっぱり本当の強さを体感したというか…それは選手もそうですしチームのレベルの高さみたいなのを身に染みて感じたので、あそこでもっと頑張らないといけないと思えたし、逆に通用する部分もあったので、一番印象的ですね。

3 体のケアとかはすごく気を遣うようにしていて、プレーに支障はないケガと付き合ってきましたけど、それがなかったら厳しかったかもしれませんね。ケアの部分が習慣付いたのはよかったと思いますね。

4 今は太鼓とか手拍子とか解禁になりましたけど、少し前はただ観るだけだったのでそれでもちゃんと力になっていましたし、個人としてもプレーでしっかり表現できたり、チームとしても結果を残せたと思えるので、その点で本当にありがたかったと思っています。

24 生駒 仁 選手

Jin IKOMA

1 苦しい時間も長かったですが、個人的にはよかったと思っています。チームがいい状況の時にもなかなか試合に絡めない中で、出られなかった時間を大事にして腐らずにやっていた結果、終盤戦にチャンスがまわってきて試合に出られたと思っています。そういう経験ができたことも踏まえて、すごく大きな一年になったと思っています。

2 開幕戦ですね。J2での出場も初めてでしたし、満員の中でプレーできたのは一人のサッカー選手としても嬉しかったことなので。勝てなかったのは悔しかったですけど、一番印象に残っています。

3 コンディション的にきつい部分はあったんですけど、試合の反省点をそれほど引きずらずに、うまく次の試合に切り替えられたのは過密日程だったからだと思います。

4 コロナ禍で難しい状況の中、スタジアムまで足を運んでくれたり遠いアウェイの地まで応援に駆けつけてくれたり、本当に僕らの力になっていました。特に今季は支えてくださった皆さんに感謝の気持ちを伝えたいですね。

Q 質問 ― [1]2020シーズンを振り返って　[2]2020シーズンで最も印象に残った試合は？　[3]前代未聞の過密日程を闘い抜いた感想は？　[4]ファン・サポーターの皆さんへのメッセージ

3 福森 健太 選手

Kenta FUKUMORI

1 個人としては中断期間中にできることをして、それがベースになって試合に出られるようになったり、ゴールやアシストの結果に結びついたことがすごくよかったシーズンだったと思います。チームとしては、9連勝したり逆に9試合勝てなかったり、いろいろな経験ができたことがよかったですが、J1昇格ができなかったということでそこまでの力がなかったことを知らしめられたので、今後昇格を見据えるうえでいい経験になった1年だったと思います。

2 ホーム新潟戦ですかね。Jリーグ初ゴールを取れたことと試合に勝てたことですごく印象に残っています。

3 5連戦が6回あって、その中でパフォーマンスを保つためには何をしなければならないのかっていうことを、制限された環境だからこそやれることを見つけてやっていくしかなかったので、サッカーに集中した生活を送れました。過密なりに試合に向けて行動できたことがすごくよかったと思います。

4 コロナでふれあいの機会は少なかったですが、チームはJ1昇格が見えたシーズンだったと思うので、それを実現するためにも選手・クラブ・サポーターの皆さんも本気で一緒に戦ってもらったら、より早くJ1に行けるんじゃないかと思うので、これからも僕たちと共に同じ思いで戦ってほしいと思います。

32 永田 拓也 選手

Takuya NAGATA

1 僕は今年から北九州に来ましたけど、昨年J3優勝してJ2に昇格したチームで、その勢いのまま前半戦はいい順位で折り返せたのはすごくよかったんですけど、そのあとの苦しい時期にケガもあったりして、チームの力になれずに個人的に悔しい思いもしました。そういう時にピッチの外からでももっとチームの力になれたんじゃないかと思っていたので、声掛けだったりは意識していました。ケガが治ってからはもっと自分の力を証明して、チームの力にもっとなれればよかったと思いますし、また来シーズンに向けてこのサッカーをもっと突き詰めてやっていけたらと思っています。

2 点を取ったアウェイ大宮戦です。チームのやりたいサッカーをピッチ上で体現できた試合だったと思っています。

3 コンディションを保つ難しさを味わいましたね。この状況でもどこかで上げないといけないこともありますし。こういう時だからこそ、自分の体ともう一回見つめあってできたシーズンだったと思います。

4 ファンサービスが本当にできないシーズンだったので、僕も寂しかったです。その中でピッチの上でしか僕たちの姿を見せられないということは意識して、サポーターの皆さんと一緒に戦っていました。今年は本当にありがとうございましたというのと、来年も引き続き応援をお願いしますということをお伝えしたいと思います。

15 野口 航 選手

Wataru NOGUCHI

1 個人としては前半戦はコンスタントに出場できましたけど、それを継続できなかったのは課題だと思いますし、シーズン通してチームの力になれるような選手にならないといけないなと思いました。チームとしては後半戦は難しくなるのはわかっていましたけど、これだけ後半に勝てなくてもこの位置にいるということは、難しい状況の時にも勝ちを拾ったり引き分けを重ねていったりして勝点を積んでいければ、もっと昇格争いに関わっていけたと思います。

2 ホーム徳島戦です。中断明けで初めてスタメンで、チームは2-0で勝ちましたし、自分の中でもらしさが出せたゲームだったので、すごく印象に残っています。

3 試合と試合の間は短いから、意外といい流れというのは継続しやすかったなと思います。1週間空くのと空かないのとでは全然違いますし、出ている選手はコンディション的にきつかったと思うんですけど、チームの流れという点ではいい部分もあったのかなと感じています。ただ、やっぱりアウェイから帰ってきて次が中2日でホームとかだとほぼ調整ができないという感じなので、その点はやはり難しかったですね。

4 直接的に交流する機会が全然なかったですし、最初の方は無観客試合もあったりしてプレーする姿もなかなか見てもらえなかったりしましたけど、それでもサポーターの皆さんができる限りの形で僕たちのために応援してくれたことは気づいていましたし、こういう時こそサポーターの方があっての僕たちやクラブだなと思いました。来年はどういう状況になるかまだわからないですけど、少しでも交流する機会が増えたらいいと思いますし、僕たちは一つでも多く勝てるようにやっていきたいと思います。1年間ありがとうございました!

22 藤原 奏哉 選手

Soya FUJIWARA

1 今年はダービーから始まって、途中に中断もあった中で難しいシーズンではありましたけど、J3から昇格したメンバーから大きく変わっていない中で6位以内に入れたのは個人としてもチームとしても自信になりましたし、価値も上がったと思うので、本当に1年で大きく変われるんだなと感じたシーズンでした。

2 ホーム長崎戦かな。いい形で点も取れたのに、最後に僕がファウルをしてしまったことでFKから失点してしまって…。すごくいい試合をしていて、上位対決でもありましたし、あそこで勝てていればひょっとしたらっていう気もするので…。

3 アウェイから帰ってきて中2日でホームの試合とかもあって、移動のきつさというのは感じました。ただ、海外の選手は代表戦などもある中でこういう過密日程を当たり前にこなしていくので、すごいなって思いました(笑)。あと、こういう日程だったからこそ、回復すること。それは食べることや睡眠をしっかりとることは例年よりも気を付けましたね。もちろん、きつかったんですけど次から次に試合がくるので、前の試合での課題を修正してまたすぐ次の相手に試せますから、そういう意味では楽しめる部分もありましたね。

4 今季は春先しか皆さんと会える機会がなくて、試合で結果を出すことでサポーターに恩返しはできると思いますけど、練習見学に来てくれる人と話したり写真を撮ったりというのもすごく大事なことなんだって改めて感じました。できるだけ早く、元に戻りたいなって思います。声とかは出せない中で、拍手だけでも十分伝わることはありましたし、皆さんの思いは届いていましたっていうことは本当に伝えたいです。

17 加藤 弘堅 選手

Koken KATO

1 J2に戻ってきて若いチームで改めて挑戦したシーズンで、初めはどうなるかなと思っていました。開幕戦でアビスパに負けてしまいましたが、やれるなっていう手ごたえはあった中で中断してしまって…。大変だったけど改めて感じられたこともすごく多かったし、チームとしては再開してチーム記録の9連勝もできましたし、前半はいろいろなことがありながらも結果としてはすごくよかったと思います。前半の結果を考えると、後半戦はサポーターの方ももっと違った結果を望んでいたと思うし、僕らもそれを踏まえて後半に臨んでいた中で失速してしまったことは、経験のなさもあるし、リーグを1年戦う難しさを感じさせられました。個人的には、伸二さん（小林監督）が試合メンバーを選ぶ中に常に居続けるということを心掛けていたので、30試合以上絡めたことはよかったです。ただ、もう少しチームを助けられる、目に見える結果が必要なのかなと思いました。

2 結果の部分で考えるとホーム新潟戦と東京V戦です。東京V戦は先制された中で、しっかりサッカーのスタイルが確立されたチームに逆転できたことは大きかったですし、新潟は対戦した相手で一番強いと感じたんですが、しっかり勝ち切れたことは大きかったです。

3 もちろん3連戦と5連戦とでまた違うんですが、きつかったのは否定できないですね。自分ではしっかり調整しているつもりでも、脳の疲労やストレスというのが3連戦で限界なのかなと。自分では動けているつもりでも、映像を見返したら動けていないとか…。でもその分、生活スタイルの中でどれだけ疲労を回復できるかということを考えられたシーズンでした。

4 開幕戦ですごくいい雰囲気をつくってくださって、コロナが流行って思ったような応援スタイルができない中で中断期間にオカさん（岡村和哉選手）が中心となってインスタライブなどの発信を行った中で、皆さんの反応や声は自分たちの中に大きな力を与えてもらったし、再開後に入場ができるようになった時にも自分たちのことを気にかけてくれていたり、足を運んでくれたことに感謝しています。それを試合でのプレー以外で恩返しできなかったことは歯がゆさ、物足りなさがあったので、今後どんな形でできるかはわからないですが、少しずつでも返せていけたらなと思っています。

25 國分 伸太郎 選手

Shintaro KOKUBU

1 今年はポジションも変わって、スタートダッシュこそよくなかったですけど、中断明けてからは2試合連続でゴールを取れたり、前期はよかったですよね。後半戦は思い通りにいかなかった…そんなシーズンでした。

2 アウェイ群馬戦とか好きですね。あの試合はJ2に昇格してきた同士で、向こうは勝てていなくて僕たちは勝てていて、その中で先制されて普通だったら厳しくなる展開をしっかり前半のうちに追いついて、後半隙をつくらずに逆転できましたからね。得点の取り方もよかったですしね。もちろん、上のチームに勝つ難しさはありますけど、同じくJ3を経験したチームとやって負けそうなところを勝ちに持っていけたのはよかったですね。

3 リカバリーの重要性とか、いかに早く試合ができるコンディションに持っていくかという努力の必要性が無茶苦茶わかりましたし、本当にサッカー、試合中心の生活をしていたので、すごくいい経験になりました。でも、こういう経験があるから、中3日とか普通だなと思えるはずなので、「あの時どういう準備をしていたかな」というのを経験として積み重ねられてよかったですね。

4 スタジアムでしか会えないシーズンでしたけど、コロナの怖さもある中で、スタジアムまで多くの方が駆けつけてくれて…。今年は特に泣いたり笑ったりということが多かったと思いますが、北九州というイメージがいいものだということをJ2にぶつけられたと思いますし、北九州はこれからのチームだと思うので、これからも共に成長していけたらと思います。

4 川上 竜 選手

Ryu KAWAKAMI

1 イレギュラーなシーズンだったけど、個人としてもチームとしてもぶれることなくやり続けられたと思いますし、前半戦の連勝もチーム全員の力でできたことだったので、そういうのを年間通してやれるチームになるようにやっていきたいですね。

2 アウェイ大宮戦、ホーム徳島戦です。力のあるチームを相手に僕たちのサッカーで圧倒できたというところで印象に残っています。

3 例年以上に次の試合に向けて全員の力が必要になるシーズンだったので、そういう意味では試合に出ていない選手もすごくモチベーション高く一年を通してやれたというふうに思っています。

4 大変なシーズンでその中でもすごく応援してくれて僕たちは勇気をもらえていました。これからもそういう思いに応えられるように懸命に闘いたいと思います。今季もありがとうございました。

33 針谷 岳晃 選手

Takeaki HARIGAYA

1 磐田で全然試合に出ていなかった中で、北九州に来てすぐに出させてもらって、ずっと出させてもらったことが初めての経験だったので、その中でいいパフォーマンスをできたので個人的にはよかったと思っています。

2 アウェイ水戸戦ですかね。初めてアシストをできましたし、あの試合に関しては全体を通じてよかったと思いますし、最後の方にミスがあったのが残念でしたけど、それ以外はよかったんじゃないかなと思います。

3 練習がずっとあったのでオフも少なかったですし、こういうご時世でリフレッシュというのもなかなかできなかったですね。心身共に疲れてはいましたけど試合に出ていると、さらに勝ち負けでストレスもたまるし、その中で疲労も増えていたのでそこはすごくきつかったシーズンでしたね。

4 10月に加入したにも関わらずすごく応援してくれたり、スタジアムの横断幕に名前を入れてもらったりありがたかったですし、ミクスタの雰囲気もすごく良かったです。声が出せない中でも拍手とかで支えてくれたのはすごく力になりましたし、これからどうなるかわからないですけど、これからもサポートしてくれたら嬉しいです。

10 髙橋 大悟 選手

Daigo TAKAHASHI

1 いろんな思いができた1年だったなと、個人としてもチームとしても思いますね。チームとしては首位に立ったり勝てなくなったりコロナがあったりで、いろいろなことが起きていろいろなことを体感できたシーズンでした。

2 アウェイ栃木戦かな。勝てなかったですけど、あの展開（2点ビハインド）で負けそうな流れを引き分けにもっていけたというのは、あの時のチームを表していたというか、すごくよかったんじゃないかと思います。

3 オフは全力で疲労回復に努めなければいけなかったことで、意外とリフレッシュができなかったんですよね。あと、いい意味でも悪い意味でも反省する時間がなかったですね。次がすぐ来るので、切り替えないといけない部分が大きかったなと思います。

4 今年でまたサポーターの方が増えたんじゃないかと思うんですよね。ずっとファンでいてくれた方にも少しは楽しんでいただけたシーズンだったと思います。本当に感謝しかないですし、コロナ禍にも関わらず多くの方にスタジアムまで来ていただいたり、スポンサーさんもこの状況で続けてくださったりして、その有難みに気づかせてもらいました。本当に感謝です。ありがとうございます!

14 新垣 貴之 選手

Takayuki ARAKAKI

1 最初はどうなるかなと不安もありましたし、開幕してからは緊張もあって勝てなかったですけど、うまく合わせられたらこんなにも強いチームになるんだなというのもありました。そんなシーズンでしたね。

2 アウェイ大宮戦ですね。実際にJ1でやっているチームを相手にどれだけやれるのかなというのはあって、僕個人としてもスタメンでそういう部分で楽しみではあったんですが、意外とやれたことで自信にもつながった試合でした。

3 体のケアというのは大事だったんだなっていうのは1年振り返って感じますね。逆にきちんとすることで、連戦だとしても意外とキレを出しやすいんだというふうに思いましたし、いい経験をしたと思っています。

4 コロナですごく大変なシーズンで僕たち選手もそうでしたけど、サポーターの皆さんも僕たちとの交流の機会がなかったり応援しづらいシーズンだったと思います。それでもSNSを通じてだったりいろいろな形で声をかけてもらって、本当に応援してもらえているんだなっていうのを感じられましたし、力になっていたので、そのことを皆さんに伝えたいですし感謝したいと思います。

Q 質問 ― [1]2020シーズンを振り返って　[2]2020シーズンで最も印象に残った試合は?　[3]前代未聞の過密日程を闘い抜いた感想は?　[4]ファン・サポーターの皆さんへのメッセージ

9 ディサロ燦シルヴァーノ 選手

Akira Silvano DISARO'

1 チームとしてJ3から上がってきて、僕も初めてのJ2で不安よりは楽しみの方が大きかった中で、最初は連敗スタートで自分たちの立ち位置はやっぱりこのくらいなのかなと思っていたところで、勝ち続けられて前期を1位で終えて、周りから昇格や優勝だという声が聞こえてきて、僕たちは意識しないようにしていましたけど、後期はうまくいかず…。
昇格はできませんでしたけど、来季につながるいいチーム作りはできたんじゃないかと思っています。個人としては目標にしていた15ゴールは達成できたし、8月には月間MVPにも選出していただいて大きく名前や価値が上がった年になったとも思うので、2020シーズンはすごく僕にとって意味のあるシーズンだったと思います。

2 ホーム新潟戦です。その時新潟は勢いもあって、前線にタレントもそろっていたので、開始早々にオフサイドでしたがやられた時もあったし、ああいう苦しいゲームを2-1で勝てたのが僕自身は点を取っていないですけど、すごくよかった試合だったと思いますね。

3 僕たちが快進撃をできたのも過密日程のおかげという部分も大きかったと思うので、若さやアグレッシブさ、昇格してきた勢いとかいろいろな条件が重なって、前期は僕たちをなかなか研究できなかった部分もあって突っ走れたのかなとも思いますね。

4 再開後初戦は無観客試合で、有観客になっても数に制限があったりとか、練習にも来てもらえないしスタジアムにも足を運びにくい時期が続きましたが、それでもSNSなど小さいことかもしれないですけど、皆さんの声が力になりましたし勇気づけてもらえたので、本当に感謝したいです。

18 町野 修斗 選手

Shuto MACHINO

1 前半は勝ちに慣れていた部分もある中で、後半は苦しんだなという印象です。個人としても後半は点を取れていないので…。

2 2点を取れたホーム東京V戦です。コンディションがよかったですし、今シーズン取り組んできたことがしっかり出せました。

3 きつかったですね…。1週間しっかり準備できるのってどういう気持ちなんだろうとか思いましたし、もうやりたくないですね(笑)。体のキレがどんどんなくなっていく感じがありました。

4 今年は期待通りの結果を残せませんでしたが、J2で戦っていく可能性は見いだせたシーズンだったと思うので、来季以降もたくさん期待していただいてたくさん応援を送ってください! コロナの中でも、SNSやホーム・アウェイ問わずスタジアムでもたくさんの応援は届いていましたし、本当にありがとうございました。

Q 質問 ― [1]2020シーズンを振り返って　[2]2020シーズンで最も印象に残った試合は?　[3]前代未聞の過密日程を闘い抜いた感想は?　[4]ファン・サポーターの皆さんへのメッセージ

11 池元 友樹 選手

Tomoki IKEMOTO

1 やっぱりコロナの影響で、始動して中断してまた始動してと、初めての経験でしたし、チームとしても個人としてもコンディションの作り方やチームの戦術的なところで難しいと思いましたけど、それはそれですごくいい経験になりました。一人一人がより自分のことを見つめなおすいい機会になったと思いますし、個人的にもそうやって思えたので、それは前向きに捉えています。僕だけではなくておそらく皆もそうですし、いい結果が出たこともありますけどチームとしてもいい経験をしたシーズンだったと思うので、一人一人がサッカー生活をしていく中で今後に活きてくるシーズンになったと思います。

2 やっぱり結果は出なかったですけど今年唯一何も気にせず試合をできた開幕戦です。久しぶりのJ2の試合だったし、ホームでアビスパとやれたということ、サポーターの方も多く来ていただいた中ですごくいい雰囲気の中でやらせてもらって思い出に残る試合でした。

3 まさに僕たちがそうだったように、勝ちだして勢いに乗れば波に乗れるだろうし、勝てなくて乗れなければそのままズルズル行ってしまうような難しいシーズンだったと思います。いかに結果を出し続けるか、安定した内容と結果を残していけるかというのが難しいシーズンでしたが、それも貴重な経験になったと思います。

4 当たり前のように試合にはサポーターが来てくれて声を出してくれて、練習場には来てくれて声を掛けてくれる。そんな当たり前のスタイルが困難なシーズンで、改めてサポーターの方の存在の大きさに気づけました。それも含めてトータルでいろいろな気付きを与えてくれたシーズンだと思うので、これからもお互いにリスペクトし合いながら戦っていけたらと思いますし、クラブがいい方向に進むように一緒に頑張っていけたらと思います。ありがとうございました!

28 鈴木 国友 選手

Kunitomo SUZUKI

1 過密日程の中で自分も経験したことのないサイクルで試合がくる中で、最後は昇格を達成できなかったんですけど、本当にすごく刺激のあるシーズンを戦えたなと思っています。

2 やっぱり開幕戦ですね。僕はメンバー外だったんですけど、専用スタジアムであれだけの人数が埋まって、それをピッチの中で体感できなかったので、この応援をピッチで受けたいという思いが湧きました。内容どうこうよりは僕の中ではあの試合がベストゲームですね。

3 どこも条件は同じなので試合の内容に過密日程が関わってきたかは言い訳になってしまうと思います。その中でも中2日でも中3日でも僕がやれることを探して、少しでもいいコンディションに持っていこうという努力は常にできましたし、本当に連戦だからこそサッカーに集中できたなというのはありました。その中で貴重なオフをいただけた時はしっかりリフレッシュして次の5連戦に備えられましたし、本当にサッカー漬けでした。トレーナーの皆さんのおかげもあって、僕は大きなケガもなかったので、そこはよかったですね。

4 まずはJ1昇格できなくて、本当に申し訳ないと思います。いろいろな弾幕などを見たりして、サポーターの皆さんが一番J1昇格を望んでいたと思うし、実現したかったというのが率直な思いです。その中でも、手拍子だったりやれることが限られた中で最大限応援していただいた中で、個人としてももう少し結果で応えたかったなと思います。なかなかふれあう機会がない中で、たくさんの応援をいただいたことに感謝したいです。

Q 質問 ー [1]2020シーズンを振り返って [2]2020シーズンで最も印象に残った試合は? [3]前代未聞の過密日程を闘い抜いた感想は? [4]ファン・サポーターの皆さんへのメッセージ

シマダノメ 番外編

キーワードで振り返る2020年シーズン

2014年に続くクラブ最高順位タイとなるJ2リーグ第5位で終えたギラヴァンツ北九州。皆さまの厚いサポートがあってこそ成し得た、素晴らしい2020シーズンをキーワードとともに振り返っていきます。

「ビビるな!」

2月23日の今季開幕戦でアビスパ福岡に0ー1で敗れた後、新型コロナウイルス感染の影響でJリーグは約4カ月の中断期間に入りました。6月27日にリーグは再開されますが、以降は残り41試合を消化するために、過去に例を見ない超過密日程で進むことになり、またリーグのレギュレーションも「降格なし」「交代枠を3人から5人へ」「前後半に飲水タイムを設ける」など大きな変更点がありました。そういうイレギュラーな形で迎えた再開初戦、第2節でV・ファーレン長崎と対戦したギラヴァンツ北九州は1ー2で敗れました。

この敗戦を受けて小林伸二監督は選手たちに「ビビるな!」と檄を飛ばしたそうです。J1を経験している選手が多い長崎の落ち着いた試合運びを前に、昨季からの継続でもあるアグレッシブな攻守を発揮できませんでしたが、ハイプレスが効いた場面や、うまくボールを前に運ぶ場面があったことから小林監督は「能力的にできないのではなくて、やればできるのにビビってやれなかった」と捉えたのです。その見方が間違っていなかったことは次の第3節の琉球戦で4ー0という快勝を収めたことに表れます。恐れることなく自分たちの力を信じて戦えばいいのだ、ということを選手たちが認識した再開序盤となりました。

「やれる!」

第6節のジュビロ磐田戦は0ー2で落としました。昨季J1を戦っていたチームとの実力差を選手たちはしっかり受け止めながら、しかし、その試合で磐田以上の決定機をつくったことに、特に攻撃面で「やれる!」との自信を深める試合にもなりました。この試合を機に、ハイプレスだけでは個の能力が高い選手が揃うチームからうまくボールが奪えないので、ハイプレスを掛けた後に中間層(ミドルゾーン)でいかにボールを奪うか。攻撃面ではチャンスをより確実にものにするため、またより多くのチャンスをつくるための策を個ではなくグループとしていかに講じていくか、というところに焦点を置いたレベルアップに注力していくことになるのです。

「メンバー外練習」

第7節のレノファ山口FC戦(2ー0勝利)では町野修斗選手が開幕戦以来、内藤洋平選手がシーズン初出場を、ともに途中出場という形で果たしました。町野選手は「トップ下」という新たなポジションでディサロ燦シルヴァーノ選手のチーム2点目をアシスト。内藤選手もキレのある動きで好機に絡むなど、十分な存在感を発揮しました。

2人が自らの活躍を振り返る時に揃って口にしたのがメンバー外練習(試合当日に試合メンバーに入っていない選手たちで行なう練習)の質の高さでした。長島裕明コーチと平野智己コーチが指導するその練習について内藤選手は「二人はコンディション維持を目的とするような“単に消化する時間”ではなくて、“個々を引き上げる時間”にしてくれた」と話し、町野選手は「僕にとっては大事な修行となった」と言い、そこで行われる実りのある練習がチームの大事な底上げになっていると主張しました。この長島コーチと平野コーチによるメンバー外練習や個別の居残り練習は、シーズンを通して戦力強化の場として機能していくことになるのです。

「クラブ新記録の9連勝」

第7節の山口戦から第15節のジェフユナイテッド千葉戦までの9連勝はクラブ新記録となりました。後に小林監督は「すごいことだ」と選手をほめたたえていましたが、5連勝したあたりで「何を喜んでいるの? 本当に強いチームというのは10連勝くらいするものだよ」と、選手のさらなる意欲をかきたてるような刺激を与えていました。また小林監督はシーズン前半戦を総括した時に、この9連勝を含めて「怖さなし、がプラスに働いた」と振り返っています。怖がらずに自分たちのカラーを出すことに集中して1試合1試合に臨んだ結果が生んだ快進撃だったといえます。

「レレ・マスク」

9連勝の立役者の一人が“レレ”の愛称を持つディサロ選手でした。9連勝中に計8ゴールをマーク。うち7ゴールは出場6試合連続で集めたもので、6試合連続ゴールはディサロ選手自身も過去に記憶がない初体験だったようです。この好調がディサロ選手の全国的知名度を上げることになりましたが、ゴール後のパフォーマンスもそれに一役買いました。そうです、『レレ・マスク』です。イングランド・プレミアリーグのトットナムでプレーするオランダ代表FWのステーフェン・ベルフワインのゴールパフォーマンスをヒントに、7月から有観客になったものの入場制限のある中でサポーターやファンに喜んでもらうために自らが考案した、右手で顔を覆うパフォーマンスです。レレ選手は結果的にJ2リーグ得点ランク2位となる計18ゴールを挙げ、何度もレレ・マスクを装着することになるのです。

「一番を取ってみよう!」

連勝を着々と伸ばして行く中でチームの順位も上がっていきました。その中で小林監督は「一番(首位)を取ってみよう」と選手に話しました。その言葉はJ1昇格を意識したものというよりは、選手の今後の成長を見据えてのものでした。「首位にいることで相手の出方も周囲の反応も大きく変わってくる。それをこの早い時期に経験しておくのも良い勉強になる。もちろん、首位を守り続けることが簡単にできるわけはないと分かっているけど、一番になって、そこから落ちるという感覚は経験しないと分からないことなので、1回経験してみようや、ということ」(小林監督)。そして第18節の愛媛FC戦を1−0で勝ってついに首位に。首位は第21節の水戸ホーリーホック戦(0−3敗戦)まで、第22節の東京ヴェルディ戦(0−1敗戦)で2位に後退するまでの4節分の経験となりましたが、シーズン前半戦

を首位で折り返したことは2019シーズンから始まった小林体制としての大きな成果といえました。

「研究と対策」

9連勝、首位での前半戦折り返しと絶好調で迎えたシーズン後半戦は、いきなり大きな壁にぶつかることになりました。前半戦最後の水戸戦を含めて9戦未勝利(3分け6敗)という長いトンネルに入ったのです。出場6試合連続ゴールが途絶えた第14節の東京V戦後にディサロ選手は「僕へのパスコースを完全に消しにきているし、僕自身への警戒が明らかに高まっている」と感じていたようですが、ディサロ選手だけにとどまらず、チームとしてのやり方を研究してその対策にかなり力を入れるようになった相手が増えたのが後半戦に感じた変化でした。

ギラヴァンツ北九州の攻撃力を警戒して自陣に待ち構えて守備をするチームが増え、またハイプレスにつかまらないように、細かいビルドアップはあきらめて前線へロングボールを蹴る割り切った戦いを選択するチームが増えました。特にロングボールを蹴られると、ハイプレスという攻撃のスイッチを入れづらくなり、攻撃的なサッカーを貫くギラヴァンツ北九州にとってはかなりの痛手となりました。

そして攻撃的に出ることで生まれる、主にサイドの裏のスペースを狙ったカウンターや、ビルドアップの要となる加藤弘堅選手や國分伸太郎選手への徹底的なマークなど、好調であるがゆえに避けられない徹底的な研究と対策に苦しむことになるのです。

「我慢というチャレンジ」

未勝利という状況が長く続く中で小林監督が言い続けたのが「我慢してブレずに戦うこと」という言葉でした。相手に研究されて自分たちのカラーが出せない状況の中で、これまでやってきた攻守でアグレッシブにプレーするという軸をブレることなく維持すること、その上で相手の研究を上回るだけの成

長、進化を目指そうと選手に説き続けていたのです。例えば、相手が徹底してくるカウンターに対して、守備ラインを下げて対応するというやり方ではなく、カウンターを発動するボールの出し手に素早く圧力をかける、という“攻撃的な守備”の徹底をその対応策としました。またゴール前に堅い守備ブロックを組む相手に対しては「サイド、背後、バイタルエリアをバランスよく粘り強く突く」（小林監督）攻撃のバリエーション・アップを打開策としました。『我慢するというチャレンジ』という前向きな姿勢は、第30節・ツエーゲン金沢戦の10試合ぶりの勝利や、第33節・愛媛FC戦からの5戦負けなし（2勝3分け）という反攻につながっていくのです。

「2試合8失点と新しいトライ」

5戦負けなしは反撃へのパワーになるかと思われましたが、事はうまく運びませんでした。第38節の徳島ヴォルティス戦、首位チームを叩いてJ1昇格への望みをつなごうとしましたが1ー4の完敗。この敗戦でJ1昇格の可能性が消滅すると続く山口戦も同じスコアで敗戦。最下位チーム相手の大敗に選手の気持ちも切れたかに思われましたが、J1昇格の可能性がなくなった時点で小林監督は通常シーズンならJ1昇格プレーオフの出場権を手にできる「6位以内」を目標として掲げて、選手に最後のひと踏ん張りを求めました。

第40節のジュビロ磐田戦で小林監督は新しいトライを試みました。元日本代表の遠藤保仁選手を抑えるために、それまで右サイドバックを務めていた藤原奏哉選手を中盤の一角に入れて遠藤シフトを取ったのです。この策が功を奏して優勢に試合を進め、ディサロ選手のシーズン3度目の1試合2ゴールで難敵・磐田から2ー0の快勝を収めました。

これまで選手配置を含めて相手を主体にするのではなく自分たち主体とする戦い方を徹底してきた小林監督がシーズン

最終盤で見せた「変化」という新しいトライは、上位でシーズンを締めることで、それまでの戦いで認められていたチームと選手の価値を落とさないようにするという狙い、それから来季に向けて、相手の出方を考えた柔軟性ある戦いをしていくんだとの意思表示でもあるように思いました。結果、最終節の千葉戦は1ー2で落としましたが、4位・ヴァンフォーレ甲府とは同勝点の5位という十分に評価できる順位でシーズンを締めたのです。

「サヨナラ、ミスター・ギラヴァンツ」

ニューウェーブ北九州でのプレーを含めると12シーズンにわたって『北九州』でプレーしてきた池元友樹選手が2020年を最後に現役引退の決断をしました。第41節のモンテディオ山形戦がラストプレーとなりましたが、池元という選手の人となりがよく表れたゲームでした。前半で2点をリードするのですが、先制ゴールを決めた髙橋大悟選手と追加点を挙げたディサロ選手はゴール後にベンチで控える池元選手に向かって、指で池元選手の背番号「11」のサインをつくり、ゴールを捧げました。後半の45分間は完全に山形にボールを支配されて防戦一方になりましたが、そこで懸命に耐える選手の姿勢には、池元選手を勝利で送り出してあげたい、との強い意志が見て取れましたし、試合終了後に一回り近く年齢の下の選手たちが池元選手を抱擁するために集まる場面に、池元選手がいかにリスペクトされていたか、愛されていたかがよく表れていました。

また、87分からピッチに立った池元選手は「入る前は自分の最後の試合であることを意識していましたが、いざピッチに入るとそんなことは忘れて、劣勢のチームのために動く自分がいました」と、チームの勝利のために全力で戦う、いつも通りにプレーする“らしさ”を最後の最後も見せてくれました。試合後の引退セレモニーでは誠実な言葉で自らを支えてくれた方々への感謝と、これからのクラブとチームへのエールを贈り、セレモニーに参加したすべての人たちからの大きな拍手で温かく送り出されました。

皆さんにとって、2020シーズンのギラヴァンツ北九州の戦いぶりは予想通りのものでしたか?それとも良い意味で裏切られましたか? 来季も小林監督の続投が決定しています。チャレンジをやめない指揮官の下、2020年でさまざまな経験を積んだ選手たちがまた素晴らしい戦いとプレーを見せてくれることを期待して、2021シーズンの開幕を待ちましょう。

［文:島田徹］

PRESENT

選手からのプレゼント!

各1名様

ディサロ燦シルヴァーノ 選手
サイン入り実着スパイク

1名様

永井 堅梧 選手
サイン入り実着ユニフォーム

1名様

髙橋 大悟 選手
サイン入り実着スパイク

1名様

生駒 仁 選手
サイン入り実着スパイク

各1名様

椿 直起 選手
サイン入り実着スパイク

1名様

國分 伸太郎 選手
サイン入りスパイク

1名様

池元 友樹 選手
サイン入りシューズ

1名様

加藤 弘堅 選手
サイン入りスパイク

1名様

内藤 洋平 選手
サイン入り実着スパイク

1名様

寺岡 真弘 選手
サイン入りスパイク

応募要項

- お送りしたメールのURL内の応募フォームよりご応募ください。
- 応募は1会員につき、1アイテムのみとなります。
- 当選者の発表は、アイテムの発送をもって代えさせていただきます。
- 一部のアイテムは、選手実着のものとなります。
  使用時の汚れなどがございますので、ご了承ください。

応募締切

2021年1月5日(火)